

# 優秀賞

## カテゴリー1 在宅生活の継続

タイトル	ALS患者支援を通して学んだケアマネジャーの役割～寄り添うことで得た信頼関係～
所属	秀峰会 豊穰の大地 介護保険センター
氏名	本田 佐和子
主旨	<p>【はじめに】40代女性のALS患者を初めて担当し、ケアマネジャーの立ち位置、役割について多くのことを悩み考えた。その結果、対人援助及び多職種連携に何が大切か学びを得たので、報告する。</p> <p>【介入】当初、病状進行が早く、「ご本人が困らないように」との思いから、先を見越した情報収集、提供を行った。しかし障害受容が不十分な状況での情報提供は負担をかけるだけだった。そのことに気付いてからは、本人の気持ちに寄り添うことを最も大切な役割と考え、必要な情報(カード)をくれる多職種との連携を十分にとり、必要なタイミングでカードを出すことができた。</p> <p>【考察】ケアマネジャーに大切なことは、専門的な介入以前に、人として寄り添い、本音で話せる関係になれるかである。その上で、本人を中心に必要な支援を多職種で提案・調整できたことで信頼の輪が築かれ、最期まで支え続けることができたのだと考える。</p>
選定理由	経験からしっかりと学び率直に学びを共有しようとする姿勢が素晴らしかったと思います。他の専門職に相談できる姿勢・後見に伝えることの重要性を強調していた。

## カテゴリー2 訪問サービス・通所サービス

タイトル	卓球療法の取り組みと行動変容の成果～卓球療法を展開し地域、利用者様の活動範囲を拡げる～
所属	特定医療法人フェニックス
氏名	吉田 親吾
主旨	<p>私どもフェニックスグループは『卓球療法』による取り組みを開始して、今年度で16年目を迎えた。導入開始時より、卓球の高齢者に対するリハビリ効果に着目し、リクリエーションの一環として漫然と楽しむ事も大切であるが、その効果について科学的検証を行い、介護予防及びリハビリの手段として展開する事を重点に置いてきた。</p> <p>総合事業における単独通所A型事業所Com.Do パークサイドテラス、及び通所介護事業所Com.Do 那加において、脳血管疾患の方の機能訓練の手段として卓球療法を取り積極的に取り入れ、利用者様自身が自分の効果が視える評価を検討、実施を試みた。今回は「活動と参加」「担い手・役割の創出」に繋がる行動変容があった事例と、その評価結果について報告する。</p>
選定理由	新しい取り組みであり、実際の取り組みについて具体的に知りたいと強く感じられた。

## 優秀賞

### カテゴリー3 緩和ケアと看取り

タイトル	「ここがよか」と言われた方の看取りについて～本人の思いに沿った高齢者住宅での支援～
所属	フラワーホームホームヘルプサービス
氏名	樋口 里子
主旨	目的:高齢者住宅で本人の想いである「ここがよか」に沿って訪問介護事業所が中心になって多職種で連携し本人や家族の想いを叶えることができる。方法:病状の悪化や身体機能の低下で寝たきりになって、本人や家族に障害があっても本人の想いに沿って住み慣れた場所で馴染みの人達に見守られながら最期を迎えることができた。結論:平成22年に10部屋の高齢者住宅ができてから29名が入居し入院で6名、施設入所で9名、4名が高齢者住宅で亡くなり退居された。今回、知的障害があり高齢者住宅が出来た当初から入居していた方が病院や施設に行きたくないとの強い気持ちに沿って障害のある家族に説明や支援をしながら高齢者住宅での看取りを多職種や家族、住人等と一緒に居室で葬儀まで行い、見守られながら、最期を迎えることができた。現在では、入居者の方々
選定理由	高齢者住宅での緩和ケア・看取り、その後葬儀まで施設内で実施している。本来の地域の生活とはこういうもの。それを実践していること及び取り組みへの姿勢を評価したい。

### カテゴリー4 人材育成・教育

タイトル	得意を活かした全員参加の人材育成への取り組み
所属	社会福祉法人ダイヤライフ福祉会 ユニット型特別養護老人ホーム絆の広場
氏名	池島 公一
主旨	当施設では今年度より、一般社団法人日本ユニットケア推進センターから、ユニットケア研修実地研修施設の指定を受ける事が出来た。個別ケア実践への取り組みを続ける中、定年退職を期に入職した職員に対しての育成に課題が生まれた。熱意は強くあるものの、ケアの提供にあたって知識や技術が思う様に習得できず、指導の方向性を見いだせずにいる内に職員間でのギャップも生じ始めた。そんな中、ユニットリーダーとしてチーム内の思いを取りまとめながら、幅広い年齢層の職員が働いていけることを目指し、取り組みを行ってきた。
選定理由	定年退職を期に入職した新人職員に対する指導方法について「年上の人に意見すること」が苦手だった自分を超え、他のスタッフに相談しながらOJTを行っていったところを評価したい。

### カテゴリー5 地域で支える認知症ケア

タイトル	充実した日々を編む～手作業を通しての関わり～
所属	萌気園浦佐有料老人ホーム『ハイマート・ハイム』島田
氏名	佐藤 佳範
主旨	ハイマート・ハイム島田では、日々入居者様が充実した日々を送って頂きたいと願っております。そんなある日入居者様から不満の声が……。入居者様の不満の背景と職員のある接し方で予想もしない、いくつかの出来事が！地域を巻き込み、入居者様の優しさ地域のあたたかさに触れ、入居者様と職員との関わりが深まり入居者様の不安が緩和された事例を紹介したいと思います。
選定理由	利用者様が作られた作品を施設内だけでなく地域(小学校)で交流を持ち作品を展示されていました。地域を巻き込んだ関わり、小学生との交流がまさに地域包括ケアと思いました。

## 優秀賞

### カテゴリー6 口腔ケアと栄養管理

タイトル	施設での義歯治療により、食形態改善と笑顔を取り戻す
所属	医療法人 大谷歯科
氏名	大谷 学
主旨	従来の歯科医は、来院できる患者を対象に治療を行ってきた。今まではこれで十分であったが、この超高齢社会を迎え診療所に通院できず、施設や在宅で「口から食べる」ことを半ば諦めかけている患者に、歯科医として今何ができるのだろうか？人が生きて行く上で「口から食べる」ことは非常に重要な意味を持っている。特に障がいを持った方が、どれだけ生きる意欲を持つことができるか、どれだけ体力の回復を望めるかは、ひとえに「口から食べる」そして「咀嚼する」ことにかかっていると看しても過言ではない。義歯治療により口腔機能回復、また口腔だけでなく全身の機能回復・心身の回復へとつながっている。今回は施設での治療により食形態改善と、何よりも患者の
選定理由	高齢で胃ろう経験者で介護度4の困難ケースを義歯の咬合形態の修正・咀嚼機能の改善、指導、口腔リハビリ等の取り組みで改善させた複数の報告でした。何よりも患者さんの笑顔を取り戻すことを目標に実践されている報告でした。施設以外在宅での取り組みの指針となる実践報告でした。

### カテゴリー7 これからの地域包括ケア

タイトル	これからの地域包括ケア、地域共生社会へ 入口は地域から客体から主体へ 主役は市民！
所属	ゆいの里、ソーシャルケアワーカー集団しもつかれいど
氏名	飯島 恵子
主旨	地域包括ケアシステムの植木鉢の絵 3枚の葉が元気に育つ為に、お皿、植木鉢、土の安定と元気が重要。主役は市民、入口は地域。 【実践その1】「地域包括ケアの市民への見える化」情報の共有化 市民への見える化は、データではなく、わかりやすく伝えて、わが事として受けとめる地域や市民を増やしていくことが大切な事。 1. 「まるごとケアのまちづくり」市民公開講座 2. 地域密着型事業所と自治会のコラボ「まちづくり&認知症サポーター養成講座」 3. 小学校で「認知症サポーター養成講座」 4. 自治会主催、自治公民館「古い支度講座」 5. 祭りの仮装大会3分間ソーシャルアクション 6. RUN 伴栃木チーム那須塩原 7. 映画「ケアニン」自主上映会等、地域住民と共に情報や知識や気づきを共有、体験します。 【実践その2】介護保険に頼らない「地域の通いの場」自主的な参加 1. 「転ばぬ先の知恵教室」街中サロンから公民館に場所を移して介護予防、自立支援の活動13年目。初回から参加の仲間が100歳を迎えた。新たな友人づくり、認知症進行予防に効果が見られる。 2. 「オレンジドアにしなす」物忘れが不安な人、認知症と診断された人が自ら語り、やりたいことを形にしていく当事者による当事者のための通いの場。家族ケアラー支援は「ケアラーズカフェ」あきらめないで伝える、共に学ぶ。住民一人ひとりが、このまちで、どう生きて、どう逝きたいか、そのために今、できることは何か、老いも若きも共に考えて行動、地域共生社会のまちづくりへ。
選定理由	包括ケア、共生ケア素晴らしかった。

## 優秀賞

### カテゴリー8 新しい試み

タイトル	松戸市在宅医療・介護連携支援センターの紹介 連携支援センターの紹介
所属	医療法人社団 実幸会 いらはら診療所
氏名	佐々木 穰史
主旨	松戸市では、在宅医療・介護連携推進事業の業務の一部を、医師会へ業務を委託し、H30年4月1日より在宅医療・介護連携支援センターを開設しました。 同センターでは、保健師・社会福祉士・相談支援専門員の他、管理栄養士・理学療法士・歯科衛生士・医療事務が在籍しており、推進事業に関する業務のほか、『困難事例に対する相談支援・アウトリーチ』、『二人主治医制の推奨』、『在宅医療のスタートアップ支援・質の向上支援』を行っています。 この中で、相談支援・アウトリーチと在宅医療の質の向上支援について、実際にかかわった事例を通して紹介し、今後に対する展望を考察します。
選定理由	地域包括ケアの推進において重要な行政との関わりに関して参考にするべき内容であった。

### カテゴリー9 薬と生活

タイトル	訪問薬剤師はどのように必要なのか～私にはおばあちゃんがたくさんいます！～
所属	アイ薬局
氏名	寺本 理智
主旨	老々介護が増える中、認知介護やその先に迫る認知症状を抱えての独居問題が起こります。施設か在宅か。という選択に迷いながらも、可能な限り在宅希望の意思を持つ患者さんと、それを支えるスタッフの中で、薬剤師の役割を考えます。 ご本人の希望はもちろんですが、個人の生活の段階に合わせてのケアが必要です。それには、服薬云々ではなく、まず生活が送れることが一番です。そこに薬が邪魔してはなりません。 また、各医療スタッフの仕事に薬剤師が安易に介入すると、かえって混乱が起こります。仕事の線引きの見極めが重要です。 全てはご本人とご家族のため、本当の身内のように捉え、実際に自分がケアする立場になったらと具体的に想像し、積極的かつ謙虚に意見を述べ、実績を重ねることが求められます。
選定理由	多職種とのアナログな連携が薬局で行われ地域に根ざしている。在宅ケアを支えていることがよくわかった。